

(別紙1)

自己評価及び外部評価結果
作成日

令和6年2月9日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100417		
法人名	社会福祉法人紀伊松風苑		
事業所名	グループホーム紀伊松風苑なるたきのさと		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	和歌山県和歌山市園部364番地3		
自己評価作成日	令和6年2月9日	評価結果市町村受理日	令和6年4月9日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人カリア
所在地	大阪府泉佐野市泉ヶ丘4-4-33
訪問調査日	令和6年3月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所理念のもと、共同生活の場においても一人一人の理想とする暮らしを個別に、安全面同様に考え、実現出来るよう取り組んでいます。また緑豊かな環境であり、季節も感じやすく穏やかな場にてゆったりと各々過ごして頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

緑豊かな環境であり、季節も感じやすく穏やかな場所にあるホームで、建物内は畳スペース、日のあたる廊下にはソファや椅子を並べ、利用者一人ひとりのペースに合わせて、ゆっくりと関わりを持ち過ごされています。コロナ禍には制限されていた面会や外出も現在、散歩やショッピング・ドライブ会など再開し、面会も面会室を準備され短時間となっていますが、面会できるよう配慮されています。また、同一法人の施設や事業所が近隣にあるため、利用者の状態に合ったサービスが選択できるよう支援されています。災害時や医療面においても、同法人との連携が常にとれており、些細なことでも相談・対応できる体制をとられています。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の内容を食堂、職員室に提示し毎日見る事で意識付け共有化を図り日々の業務に反映させ実践している。	開設当初からの理念を継続して利用しており、会議にてスタッフ間で話し合う機会を設け、共有はしっかりと出来ています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策により地域行事等の参加は控えている。日常的な散歩等での挨拶、近隣の溝掃除等で地域の一員として貢献できるよう努めている。	地区の自治会に法人として加入しており、地域住民とともにスタッフが清掃活動をおこなっています。以前は地区の夏祭りや餅つきに参加していました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は実習生や職場体験あり。現在は当法人のコロナ感染症対策に沿って見学や相談等に随時対応している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の開催ではあるがコロナ禍により資料を送付。意見、感想等は返送や電話連絡にて頂きサービス向上に取り組んでいる。	感染症対策のため、現在書面にて、家族や自治会長、包括スタッフ等に2か月に一度資料を送付し、意見を返信してもらい、それを運営に活かしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護の方の入居もあり担当者への連絡、相談を行っており、地域包括支援センターや当法人から市の情報等受け取ることが多い。	生活保護対象利用者への相談や受け入れの連携をおこなっています。また、市開催の外部研修に参加したり、内部研修の際に包括支援センタースタッフが参加してくれています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる	新職員への研修の実施、毎月の法人内での委員会、研修への参加、ホーム内会議でも学ぶ機会を設けている。1階の玄関は防犯の観点から施錠しているが希望時は自由に行き来できるように努めている。	身体拘束研修は法人内やグループホーム内研修により定期的に話し合う機会を設けており、スタッフの意識付けをおこなっています。	
7		○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修やホーム内会議で学ぶ機会を設け、人権擁護推進員が中心となり日頃の業務内で職員同士注意し虐待行為が見逃される事のないよう取り組んでいる。		

8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見人制度を利用されている方はいないが、法人内研修やホーム内会議で学ぶ機会を設け、必要に応じて地域包括支援センター職員に相談している。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面を基に説明し、その都度不安や疑問点に返答することで理解、納得頂けるよう取り組んでいる。		
10	6 ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見、要望は生活の場でその都度伺い家族の意見は面会時や電話、書面等関わりが発生する場面でできる限り汲み取り運営に反映させている。	時間制限や感染症対策をおこなった上で面会はできるようになっており、その際に意見や要望を聞き、また2か月に一度の運営推進会議資料を送付した際にも意見や要望を返信してもらっています。	
11	7 ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている	日頃から業務中でも話せる時間のあるときや個別の面談等にて意見、提案を聞きチームで考えて反映させている。	年一回は管理者とスタッフで個別面談をおこなっており、スタッフからの意見を直接聞く機会を設けています。また、普段からスタッフから管理者に相談に来る等、風通しのよい関係性を築いています。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は人事考課制度によるフィードバックなどで職員個々の目標ややりがいを把握しており、職場環境等の設備に努めている。		
13	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は個々の力量、実績に応じて外部研修への参加や法人内研修を行いスキルアップ出来るよう進めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ禍であった為交流の機会は減ってしまったが感染症対策を行いながら訪問等再開しサービスの質の向上に努めている。		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、本人との面談にて言動や表情を観察し不安、要望を伺い希望を反映させた介護計画を立案し安心して生活が送れるよう努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居への不安や要望等は電話や面談にて繰り返し安心できるまで行い信頼関係の構築に努めている。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族等の要望を基に事前の情報収集にて優先すべきサービス内容を提供し必要時にはその他のサービス利用にも対応し支援に努めている。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム理念に沿って利用者個々の知識、経験を活かして出来ることを協力して行って共に暮らし支え合う関係作りに努めている。		
19	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後も今までの関係性が維持できるようホームでの暮らしの情報共有にて連携を図り可能な限りの協力を得られる関係を築いている。		
20	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出は少しずつ再開しており、アクリル板を挟んでの面会、電話、手紙等でできる限り馴染みある人との関係が途切れないよう支援している。	コロナの影響により、外出自体が制限せざるを得ませんでしたが、現在はショッピングやドライブ会、近隣への散歩等を再開しております。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個人の性格やその日の感情に気を付けながら、良好な関係性が築けるよう必要に応じて職員がフォローしお互いが支え合えるよう支援に努めている。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じた情報提供や相談援助に努め、関係性の維持に努めている。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で本人の言動を観察し、思いや意向を汲み取り毎月の部署会議にて話し合い可視化することでその人の求める暮らしが出来るよう努めている。	アセスメント票を用い、利用者・家族の思いや意向をスタッフ全員で把握できるよう努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居以前に関わりのあった方々や施設等からの情報提供により生活歴、馴染みの暮らし方を把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の暮らしの中で言動、表情や体調等を観察し介護経過への記録に努め個々の有する力を把握。職員間で情報共有し随時検討するよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員の意見やアイデアを反映し介護計画を作成している。また定期的な見直しにて状態変化に適した介護計画を提供できるよう努めている。	介護計画は状態が変化する度に、サービス担当者会議を開催し、計画変更しています。モニタリングは毎月実施しており、利用者の状態変化等に即対応した計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々変化する言動、状態を介護経過に記録し話し合いを行う事で情報共有し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、意向を考慮しできる範囲内でその方が希望されるサービス（主に通院、外出等）提供している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア団体や認知症カフェ、バザー等での交流があったがコロナ禍より地域資源の活用が難しくなった。		

30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人、家族の意向を最優先に、かかりつけ医を選択して頂き、その他各医療機関への受診のサポートを行い安心して医療が受けられるよう支援している。</p>	<p>入居時に本人・家族の意向を確認し、入居前からの受診医の他、法人内診療所の医師をかかりつけ医と選択し定期の往診を受けています。往診医では難しい眼科や皮膚科などは希望に応じて外部受診できるように家族の協力を得ながら送迎や付き添いなどの支援を実施しています。また、日頃の健康管理や急変の際、法人内の看護師と連携をとれる体制が築かれています。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>法人診療所の担当看護師に状態変化や必要な情報を伝え受診や看護を受けられるよう支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院時には必要な情報提供を行い、早期退院にむけて医療関係者と連絡を取り合うよう努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の契約時に説明し状態変化の際にも意向を確認し説明している。また重度化した場合など当法人の特養への移行も含めて案内している。</p>	<p>重度化や終末期にホームができる対応について、本人・家族に説明し、状態変化の都度、本人・家族の意向を大切にしながら、同法人の特養などへの移行支援なども含めて案内しています。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルの把握や定期的な事故、急変時の対応についての研修への参加、部署会議での話し合いにて実践力を身に付けている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的な避難訓練と部署会議にて災害対策を身に付け、法人全体とホームでの備蓄確保、必要物品の管理、点検を行っている。</p>	<p>法人全体での訓練に参加したり、ホーム独自で年2回夜間を想定した訓練を実施しています。火災の想定だけでなく、付近の河川の被害想定も踏まえて、避難訓練や備蓄物品の準備、管理、点検などを実施しています。隣接する法人全体で協力体制が確立しています。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>法人内外研修により学び、日頃から職員間で言葉掛けや対応方法を気を付け合いながら利用者の人格尊重、プライバシー保護に努めている。</p>	<p>利用者への接遇やマナーに関することについて、法人内外研修で学び、普段からの周知に努めています。気になる言葉遣いなどは、その都度職員間で注意し合い対応しています。</p>	
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日々の言動の観察にて個人の能力に合わせた自己決定や意思表示のできる声掛け、対応方法により働きかけている。</p>		
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>生活リズムを崩さない程度で個々の希望される過ごし方に寄り添い支援している。</p>		
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>好みの衣類の選択、ヘアスタイル等希望に応じておしゃれができるよう支援している。季節に合わない服や重ね着が不自然な場合はフォロー行っている。</p>		
40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個々の能力に合わせ配膳や盛り付け、洗い物等行い毎食、楽しみなよう支援している。食べたい物を聞き取り調理することもある。</p>	<p>特養の厨房で調理した食事を運び、個々の能力に合わせ、配膳や盛り付け、洗い物などを行ってもらっています。また、イベントやおやつ作りなどでは、利用者の食べたいものを取り入れたメニューになっており、食事が楽しみなものになるようにしています。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>生活歴や食事摂取量の記録にて状態を把握し、看護師、栄養士、家族との連携にて適した栄養摂取に努めている。食事中の環境、声掛けにも気を付け支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>殺菌効果のあるオゾン水を活用しながら個々に合わせた対応により口腔内の清潔保持に努めている。</p>		

43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄時間、量の記録から個々の排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄に繋げている。	利用者個々の排泄パターンやサインを把握して適時にトイレ誘導し、出来る限りトイレでの排泄を促しています。リハビリパンツを利用している人もいれば、布パンツの人もおり、一人ひとりにあった排泄支援を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの良い食事、適度な運動と水分摂取時にオリゴ糖を活用している。個々の状態に合わせて出来る限り薬に頼らない排便に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回以上の入浴を基準とし、出来る限り本人の希望に沿って行い、入浴剤や季節湯、付き添う職員の選択等にて個々に応じた支援をしている。	基本的には3日に1回のペースで入浴して頂き、利用者の体調や希望に応じて変更も可能です。浴槽の跨ぎが困難な人にも、安全に入浴できるようリフト浴で対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせた時間、照明、温度等の調整や寝具の使用を行っている。また夜間の質の良い睡眠に繋がるよう運動や昼寝の時間を調整しながら生活リズムを整える取り組みを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の生活状況をファイルにまとめ周知している。状態変化がある場合は看護師に報告、相談しながら早期に対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前に収集した情報から生活歴を知り日々の関わりから新たな情報を得ることで個々に応じた役割、楽しみ事、気分転換等支援している。		

49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナ禍により外出を控えていたが近隣の散歩は継続しつつ、その他も外出の機会を増やしている。個別に家族様の協力もあり感染症対策に気を付け支援している。	コロナ5類後の現在、近隣の散歩やショッピング・ドライブ会等、日常的な外出支援の機会をもたれています。また、個別に家族の協力を得て、感染症対策をしながら、外出することもあります。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様と相談しながら少額ではあるが自己管理されている方もおられる。買い物等にはできる限りご自身での支払い等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	携帯電話の所持や電話の取り次ぎを行っている。また年賀状作成のフォロー等行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂の窓からは四季折々の景色を楽しみ、その季節に合わせた装飾品の提示を行っている。利用者の導線に気を付け毎日の清掃により清潔を保ち居心地のよい環境作りに努めている。	柔らかな光が差し込み、季節を感じられるような飾り付けを行い、利用者の動線に気をつけ、掃除も行き届いており、過ごしやすい環境となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士の席の配慮や畳スペース、日の当たる廊下にソファ、椅子を並べ個々の時間を保てる工夫を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談しできる限り馴染みある物（主に写真）を用いて居心地のよい環境作りを行っている。	居室には電動ベッドや洗面台、エアコンが備え付けとなっていますが、その他は慣れ親しんだものを持ってきて頂き、居心地よい環境づくりに配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	安全に生活できるよう利用者の状態に合わせその都度環境整備に取り組んでいる。		

V アウトカム項目		
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○ ①ほぼ全ての利用者と ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない